

本編の一部を抜粋しています

成績が上がる中学生の勉強法

印刷したいとき → 左上の印刷ボタン

保存したいとき → 左上の「ファイル」 → 名前つけて保存



※ 著作権法により無断複写・複製を禁じます。

※ 中学1年生でも読めるようにルビをうってあります。

塾で実践して本当に効果があった勉強法が書いてあります。

そのまま真似してやってみてください。

実行すれば成績が上がります。がんばろうね。

～ 本編の内容 ～

「成績が上がる中学生の勉強法」は以下のような構成になっています。
第6章以外は親子でいっしょに読まれることをオススメします。

第1章 成績が上がる4つの基本ルール

勉強を頑張るうえで、とても大切なルールをまとめました。
勉強が苦手なお子さんはたいていこのルールを守れていません。
この4つをしっかりと実行するだけで成績は上がります。

第2章 平均以下から70点を目指す勉強

読みやすさと「やってみよう」と思える量を考え、
5科目の勉強法をコンパクトにまとめました。
優先順にSTEP1にしてまとめてあります。
勉強を始めるときはこのSTEP順に取り組んでください。

第3章 80点以上を目指す勉強

高得点を目指すための学習法やお子さんに欲が出てきたとき、
勉強についてもっと知りたいと思ったときの深い知識をまとめました。
40点を60点にするときの20点と60点を80点にするときの20点は
質が違うため、やるべきことも発展させる必要があります。

第4章 ふだんの予習・復習

テスト期間以外の、日頃の勉強は何をすればいいのか。
部活動などで時間がないときの復習法を紹介

第5章 よくいただく質問と回答

保護者様からよくいただく質問に答えました。

第6章 保護者様の読み物(特典)

お子さんをどのようにサポートすればよいか、など保護者さまの読み物です。

何度も読んで、実行できそうな部分を別の紙に書き出したり
ふせんを貼っていくといっそう効果的です。

「成績が上がる中学生の勉強法 もくじ」

第1章 成績が上がる4つの基本ルール …5

第2章 平均以下から70点を目指す勉強法

5科目全体に言えること……………	21
数学の勉強法……………	28
英語の勉強法……………	44
理科・社会の勉強法……………	62
国語の勉強法……………	78

第3章 70点を取れた人が80点以上を目指す勉強

勉強する理由を理解する……………	90
上手に質問するコツ……………	92
ケアレスミスの防ぎ方……………	94
記述式問題の対策……………	97
リスニング・英作文の対策……………	100
効果的な単語の覚え方……………	102
英語5文型の理解……………	104
参考書の選び方……………	119

第4章 日頃の予習・復習方法…121

第5章 よくいただく相談と回答…124

やる気の出し方……………	125
計画の立て方……………	129
集中力の高め方……………	132
勉強と休憩の場所……………	135

第6章 保護者様の読みもの

塾と家庭教師について……………	138
こどもにやってはいけない3つ……	143
一番大切なこと=こどもの心……	155

第一章 成績が上がる4つの基本ルール

今日はテスト前日です。

テスト前日に、あなたはどんな状態が理想ですか？

イメージしてください。

どうですか？

イメージできましたか？

今までのテスト前日はどうでしたか？

ソワソワして落ち着かない……

「もっと前から勉強しておけばよかった」と後悔している……

「テスト範囲が広すぎる」と文句を言っている……

きゅうきょく究極の姿は、きんちょう自信満々でしかも緊張している状態です。

明日はテストで緊張するけれど、やることはやったのでじゅうじつかん充実感もある。

とにかくここまで勉強したことは初めてで、頑張れたことがうれ嬉しい。

実はテストが待ち遠しくてしょうがない。

いい点取れるかもしれないと期待している。

そんな状態になってほしい。

では、どうすればそんな気持ちのよい状態になれるでしょうか？

やれることを精一杯やった。

自分でやるべきことを決めて、やりきったときに充実感が得られます。

あなたの場合はとりあえず70点に目標を^{きだ}定めましょう。

「もっといい点取りたい！」という気持ちはわかりますが、今は欲張らないで。

では確実に70点を取るにはどうすればいい？

問題集をたくさん買ってくる？

いいえ、逆です。 **問題集は1冊だけにしましょう。**

志望校に合格した先輩のアドバイスで「**一冊の問題集を徹底的に^{てっぺいてき}やった**」というのを聞いたことがありますか？

それは本当のことです。

あれもこれもやろうとせずに、とにかく問題集一冊をマスターします。

学校でワークをもらっているなら、それを徹底しましょう。

勉強が苦手な子は、あれもこれも手を出して中途半端になりやすいです。

学校のワークがまだ終わっていないのに、書店で問題集を買ったり・・

学校の宿題で手一杯なのに、進研ゼミを欲しがったり・・・

では、なぜ問題集一冊を徹底するのがよいか説明します。

たとえば、Aという問題集をやったとしましょう。

ページ数が少なく、手軽にできるタイプです。

Aはほとんど解けるようになったとします(できるようになった問題が黒い部分)

問題集A



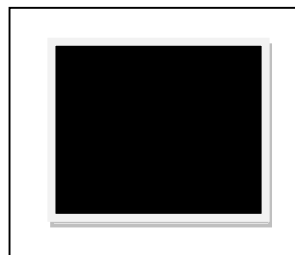
「やりきった！」という充実感もあって、気持ちいいです。

これだけできるようになれば、自信もつきます。

この状態でテストを受けるといいです。

1冊をほぼ完璧に仕上げたら、次の問題集を考えましょう。

書店に行き、Bという問題集も買ってやってみました。



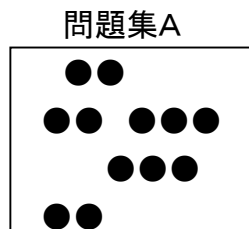
Aの問題集ですでにできている部分が多いので、Bの問題集は残りの白い部分だけを集中して解けばいいのです。

さらに知識が増えていくのが実感できて、精神的な満足もあります。

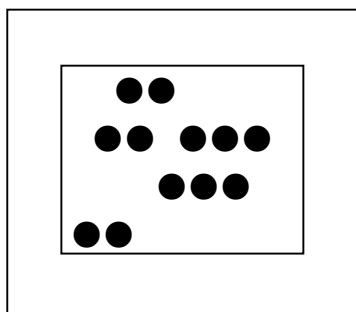
もちろん、点数もさらに上がるでしょう。

逆に、問題集Aが中途半端な状態のまま、問題集Bをやるとどうなるでしょうか。

問題集Aをやりましたが、よくわかっていない部分を残してしまいました。



この状態で問題集Bに手をつけてしまうと……



空白部分がさらに多くなります。

問題集Aでわからなかった部分は、問題集Bでもわかりませんから、「わからない」を積み重ねてしまいます。

あれも、これもわからない……

すると、「何がわからないのか自分でも分からない」状態になってしまいます。

そして、だんだん勉強がイヤになっていくのです。

他の問題集だったら、もう少し分かるかも……いえ、同じ事を繰り返すだけです。

分からない → 不安 → 問題集を買う → さらに分からない → やる気をなくす

悪循環なのです。もちろん成績は上がりません。

ですから、まずは学校で配られているワーク一冊をしっかりとマスターしましょう。

お父さんやお母さんも、「たくさん頑張らせたい」という思いはわかりますが、

問題集をむやみに買い与えないでください。

ちなみに、80点を取れていない科目の問題集は〔 発展問題 〕はとばしていいです。

(学校への提出義務があるだろうから、書き込みはしてください。)

〔 発展 〕を除いた90パーセントができるようになって、まだ余裕があるなら、

別の問題集もやってみましょう。

ルール1： 問題集は一冊をマスターする。

次はルール2へ進みます。

「わかる」と「できる」の違いがわかりますか？

ルール2では、「わかる」と「できる」の違いを知りましょう。

学校の勉強が「わかる」

学校の勉強が「できる」

これらの2つは似ていますが、まったく違うものです。

学校の授業を聞いて、「ふ～ん、そうなんだ。」 これは「わかる」

自分の手で解いてみる。「え～っと、こうしてこうして…解けた。」 これは「できる」

参考書や問題集のまとめを見て、理解した。 これは「わかる」

まとめや参考書を見ないで自分で解いた。 これは「できる」

家庭教師の先生に教えてもらいながら問題を解いた。 これは？

「わかる」ですよ。

先生がいない場面で自分の力で問題を解いた。

これは「できる」

社会が苦手なのでノートに要点をまとめてみた。

これは「わかる」

まとめた後で、問題集を解いた。全部正解した。

これは「できる」

では、**テストで必要なのは「わかる」「できる」どちらですか？**

「できる」ですね。

テスト中はだれも助けてくれないし、教えてくれません。

自分の力だけで問題を解かねばなりません。

ですから、家でワークやプリントをやるときも「できる」まですることが大切です。

具体的なアドバイスをしますね。

ワークの問題を解くときに、教科書や参考書またはワークのまとめページを見ないでください。

ときどき、社会でわからないことがあるからといって、教科書を見ながら答えを書き、○をつけてしまう子がいます…

おいおい、それって答えを写したのといっしょ！

テスト中は教科書を見ることができますか？

今は教科書が答えを教えてくれたのだから、○をつけないで。

自力で解いたのではないのだから、○じゃない。

社会に限らず理科でも英単語でも、教科書を見た問題や人に教えてもらったものは

赤で○をつけずに、青で○にしておくなど区別しましょう。

テスト本番と同じ状況で、自力で解けた問題だけ赤の○です。

ワークや問題集に○をたくさん付けたい気持ちはわかる。

×はイヤに決まっている。

でも、ガマンするんだよ？

テスト前でも同じですよ。

ワークを1回やって○をつけるでしょ？

これは、**できた問題とできなかった問題の区別をしたにすぎません。**

重要なのは、このあとで間違えた問題や分からなかった問題をもう一度やることです。

ワークに単元テストが付いていて、60点だった。

すると、本番のテストもそのままの60点になるでしょう。

だって、できなかった問題をそのままにして解き直してないから。

では、どうすれば点数が上がる？

残りの40点分を「できる」ようにすれば、点数が上がるのです。

分からなかった問題、間違えた問題、教科書を見た問題、教えてもらった問題。

それらを「できる」ようにするのが「本当の勉強」です。

ルール2: 「わかる」を「できる」にするのが本当の勉強

では、どうすれば「できる」ようになるでしょうか？

数学の勉強法

数学 STEP1 何をすれば数学の点が取れるか知ろう

数学は考える科目。応用はヒラメキがないと解けない。思考力が大事。

このように考えている人は多いですが、中学生の数学で「考える力」や「ヒラメキ」は必要ありません。

だから、「私は考えるのが苦手だから数学ダメ」と思わないでください。

では、数学はどんな科目でしょうか？

数学は、解き方や考え方をトレーニングする科目です。

新しく解き方を考えついたり、公式を発明したりしなくていいです。

すでにわかっている解き方や公式をいかに利用するかを、身につける科目です。

はっきり言えば、**考え方と解き方を覚える科目**です。**解法パターンの暗記**をしましょう。

応用問題は、解き方や考え方を組み合わせるクイズのようなものです。

全然関係ないところから全て発想することはなく、それまでの考え方や解き方を組み合わせて考えていくということです。

ですから、数学の点を上げたいなら、**理解したあとで解きかたを暗記する努力**をしていきましょう。

数学は解き方を覚える科目

ワークの問題はこんな感じだと思います↓

(例:中1比例)

- ① y は x に比例していて、 $x=3$ のとき、 $y=6$ です。 y を x の式で表しなさい。
- ② y は x に比例していて、 $x=-2$ のとき、 $y=12$ です。 $x=3$ のときの y の値を求めなさい。
- ③ y は x に比例していて、 $x=-4$ のとき、 $y=2$ です。 $y=3$ のときの x の値を求めなさい。
- ④ 右の図のア～エのグラフの式を求めなさい。

ノートの上のほうに、今日の日付とワークのページ数を記入してからスタート。

1回目は、問題をノートに解いていきます。

問題を解くときは、**必ず途中の式を書いてください。**

①だと、 $6 \div 3 = 2$ $a = 2$ $y = 2x$

または $y = ax$ $6 = 3a$ $a = 2$ $y = 2x$

というように「どうやって解いたのか？」を書いておきます。

① $y = 2X$

② $y = - 18$

こんなふうには答えだけ書く人がいますが、きまって成績がよくありません。

なぜだかわかりますか？

数学は「解き方・考え方」を覚えて使う科目だから。

また、頭の中で考えた解き方や考え方をノートに書いていくことで、

解き方と考え方がはっきりとわかり、しかも頭に残るのです。

ノートの左ページに、途中の式を書きながら問題を解きます。

1ページ終わったら○付けを始めます。

ノートに○付けです。

○ と×がついたと思います。

ここが大切ですよ。

1、間違えた問題、わからなかった問題の □(チェックボックス) に☑を入れます。

2、☑の問題は、問題を見ながら解答の解説を読んでください。

解説を読まない人が多いですが、解説が大切ですよ。

数学は解き方・考え方を理解し、覚える科目です。

一回でわからなければ、3回読みます。音読でしたね？

理解できた場合はOKです。

3、解説が理解できない場合は問題に ☆ をつけておきます。

☆は「質問マーク」です。学校の先生や友達に質問しましょう。

あなたの場合は先生より、友達のほうが聞きやすいかな？

4、☑の問題はノート右側ページの解きなおしてみましよう。

解説を読んで理解ができ、自力で解き直せたら☑を○で囲みましょう。

そうやって、できなかった問題☑や☆を○にしていけばいいのです。

数学 STEP3 学校ワークに☑を入れながらすすめよう。

☑を少しずつでも○にしていこう

基本・標準が全部○になることが目標。

次のテストでやってみよう。

やり方に慣れるまでは大変だし、時間がかかってしまうだろうから、

早め早めに学校ワークを始めるんだよ？

自分のペースを考えて、いつからやるか自分で決めよう。

～ 図形・グラフのコツ ～

中学生の数学の学習内容は、学年共通でこのような順になっています。

	1年生	2年生	3年生
1学期	正負の数	多項式	平方根・因数分解
1学期・2学期	一次方程式	連立方程式	二次方程式
2学期	比例・反比例	一次関数	二次関数
2学期・3学期	平面・空間図形	合同証明	相似・三平方
3学期	資料の整理	確率	標本調査

※ 2学期制の地域の方も、順序は同じです。

どの学年でも最初は計算中心で得点しやすいのですが、2学期(夏休み以降)から

グラフの問題、図形の問題になり、勉強内容がぐっと難しくなります。

だから、2学期は急に数学わからなくなり、成績が下がる子が増えます。

ここでグラフや図形のアドバイス。

少し専門的な話になりますが、数学の場合で考えたり覚えたりするときに重要なのが

「しかくか視覚化」です。

ちょっと問題を出しますよ。考えてみてください。

ケン兄から10冊のマンガをもらった。4冊を友達にあげた。

残ったマンガを妹と等しくわけることにしました。

いま、ケンは何冊を持っているか？ 一つの式から、答えを求めなさい。

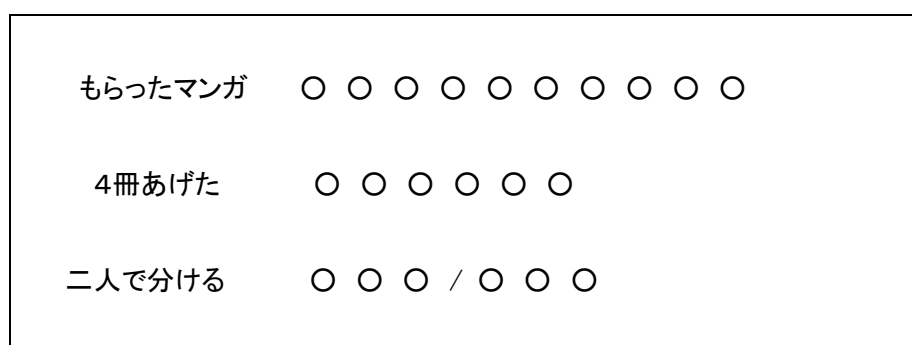
(式) $(10-4) \div 2$

答 3冊

パッと式を考えつきましたか？

中学生の問題だと、もっとややこしいですね。

そこで問題を図に書きながら考えます。



図にするとわかりやすくなります。見えますから。

グラフや図形問題は、問題をすべて写すようにします。

中1の方程式文章問題なども図を描いているうちに「わかった！」なんてこともよくあります。

定規を使うとかえって時間がかかるので、使わなくてもいいです。(フリーハンド)

また、自分で図やグラフを書いてみることで、そのイメージが頭の中に残りやすくなります。

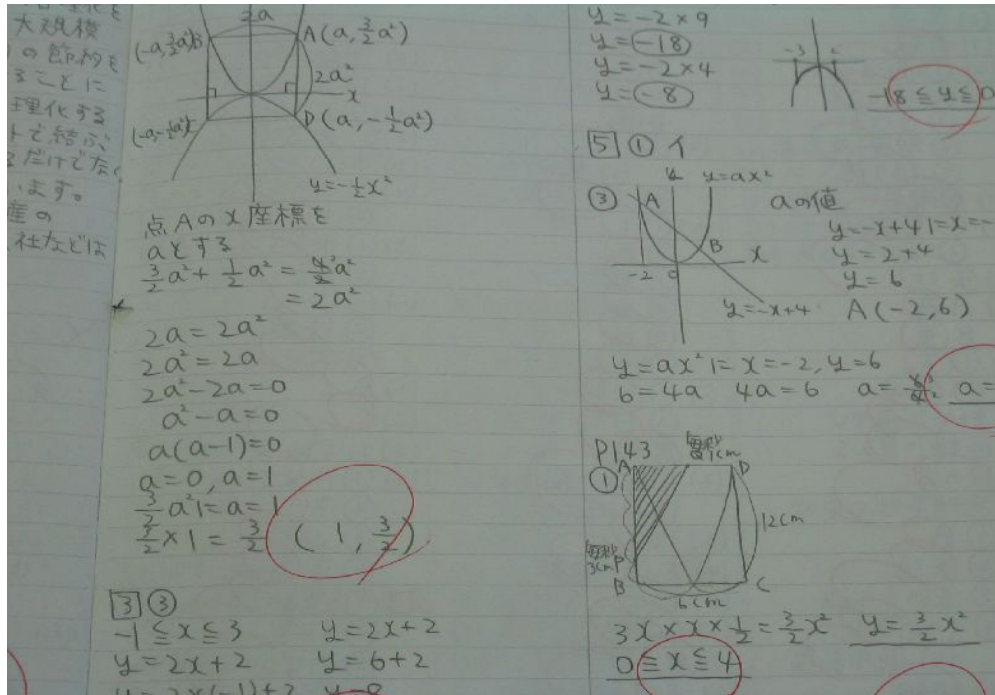
数学は、上の ○ ○ ○ / ○ ○ ○ をイメージできるかどうか大切です。

学校の授業中やワークの問題を解いて間違えた問題の「**解き直し**」をするときは、

図もいっしょに描くようにしよう。

問題文の文章が長いときは省略してもいいでしょう。

グラフや図形は記号がついていたら、それも必ず描きます。



中3生の「間違えなおしノート」

図を描き、きちんと解き直したうえで丸つけもしてあります。

フリーハンドでもいいので、グラフや図を描く。

英語の勉強法

英語 STEP1 何をすれば英語の点が取れるか知ろう

英語が好きじゃない人、多いですね。

まずは、英語ってどんなものか考えてみましょう。

英語は「言葉」です。

北アメリカ・イギリス・オーストラリア・カナダなどで話されている言葉です。

アメリカ人、オーストラリア人は英語を使って会話をしたり、仕事をしたり、コミュニケーションをとっています。

さて、みなさんは日本人ですから日本語を読んだり、聞いたり、書いたりできますね。

どうやってそれを覚えたのでしょうか？

なんとなく、気付かないうちに、自然にできるようになりました。

では、どうやって自然にできるようになったのでしょうか。

何回も何回も聞いているうちに**言葉や文を暗記した**のです。

覚えよう！暗記しよう！という意思はなかつたと思ひますが、覚えたのです。

英語も同じ、「言葉」のひとつですから覚えてしまう必要があります。

全部とはいませんが、中1の冬休みぐらいまでの内容は教科書の暗記が理想。

できない？

やってみてください。

できますよ。

だって、私の塾の生徒はできるから。

小学校から塾で英語を習っていたわけではありませんよ。

田舎ですから小学校から塾へ行っている子は少ないのです(笑)

でも、できる。覚え方にもコツがあるのです。

ただ意味もわからずに暗記するのは苦痛くつうでしかありません。

英語のルールを知り、理屈りくつをわかったうえで覚えます。

よく、「英語は単語さえ知っていればなんとかなる」と聞きますが、間違いです。

私の友人に高校の英語教師がいますが(もちろんペラペラです)、

「文法も知らずに会話なんかできっこない！」と言い切っています。

英語は言葉だから、

おおまかな文法(ルール)を知って暗記する科目。

英語 STEP2 教科書内容の理解

英語のテストで70点を取りたいときは、まず教科書の理解をしましょう。

教科書が理解できれば、まず学校の授業がわかるようになります。

教科書の内容がわかれば、テスト対策もスムーズです。

テスト対策では、「読める、意味がわかる、書ける」の3つをマスターしましょう。

具体的には、

読める = 教科書本文がスラスラ読める

意味が分かる = 教科書本文の和訳(日本語)がわかる

書ける = 基本文と太字の単語・熟語が書ける

この3つを勉強するとき、順番がとても大切です。

順番を守らないと途中でつまずきやすく、効率も下がります。

次に説明する順で勉強するようにしてください。

STEP2-1 基本文を理解する。

英語の基本文は、教科書の単元(ユニット・プログラム・レッスン)に出てくる

新しい英文法の例文のことです。

教科書によって、「基本文」「ベーシックダイアログ」などと名前が異なりますが、

学校の授業で単元の最初に学習する最重要の英文です。

最重要なので、英作文、並び替え、疑問文・否定文への変形など、

テストで必ず出題されます。

Unit 11

一年の思い出

Part 1 体験したことを伝えよう

学年末のある休日。4人はブラウン先生の自宅に招待されました。そこで先生は、4人が旅先からおくった手紙を見せてくれました。

December 30

Dear Ms. Brown,

How are you? Are you enjoying your first oshogatsu in Japan?

We're having a great time in San Francisco with Becky's grandmother.

Yesterday we walked around Fisherman's Wharf. We really enjoyed the food and the view.

基本文は読めて書けるようにしよう

語句
<input type="checkbox"/> yesterday
<input type="checkbox"/> view
Fisherman's Wharf
フィッシャーマンズ・ウオーフ
clam chowder in bread bowl
クラムチャウダー・イン・ブレッドボウル

過去のことを言う文では、動詞に(e)dがつく。この形を動詞の過去形

基本文

We walk around the park every week.
We walked around the park yesterday.

← ニューホライズンの教科書はこれが基本文です。

中学校で新しい単元を学ぶときに、この基本文の説明があると思います。

(例) We walk around the park every week.

We walked around the park yesterday.

歩いた

昨日

過去形は動詞に ed を付ける。意味は「～した」

文の後ろに過去を表す語句が入ることが多い。

当たり前ですが、学校の授業をしっかりと聞いてノートを取り、

基本文のルールを理解していきましょう。

この基本文のルールは学年があがっても、高校や大学に進んでも同じです。

もちろん英語を話す外国人は、このルールにしたがって話しています。

繰り返しますが、この基本文が最重要で、テストに必ず出ます。

理科・社会の勉強法

理科・社会 STEP1 理科社会の特徴と勉強法

理科や社会の教科書と他の教科書を見比べてみると、その特徴がハッキリとわかると思います。

理科は実験器具や実験の様子の写真、図、グラフがたくさん描かれています。

社会も歴史の資料年表、人物画、地理では記号や地図、統計などが描かれています。

テストではこれらの図や資料がたくさん出題されています。

例えば、「右の図は～です。〇〇を何と言いますか？」

「左の図は日本の代表的な〇〇をあらわしている。次の各問に答えなさい。」

このような感じの出題形式が多いです。

ですから、日頃の復習やテスト勉強をするときは、いつも図や資料と一緒に覚えることを意識してください。

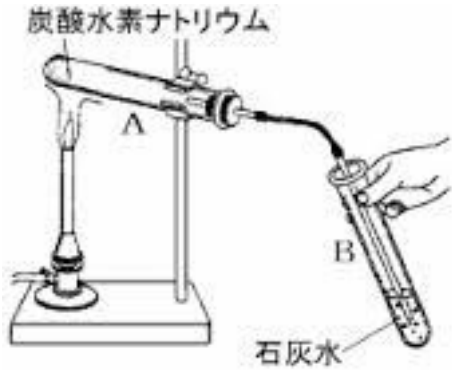


- 何？ 金剛力士像
どこ？ 東大寺南大門
いつ？ 鎌倉
どんな？ 素朴で力強い

また、社会では「なぜそれが起きたか？」を考えられると、いっそう理解が深まります。

理科の実験では、次の3つを理解するように^{つと}努めてください。

- 何を調べる実験なのか(目的)
- 実験中に気をつけること(注意点)
- 実験からわかること(原因と結果)



- 目的： 炭酸水素ナトリウムを分解すると何に分かれるか？
- 注意点： ガスバーナーの火を止める前に、ガラス管を石灰水から抜く。
(石灰水が逆流して試験官Aが割れるから)
- 結果： 石灰水が白くにごる = 二酸化炭素が発生

試験官Aの口に発生した液体。赤色塩化コバルト紙が青に = 水が発生

試験官Aに残った固体 = アルカリ性の強い炭酸ナトリウム。

理科社会は図や資料と一緒に覚える

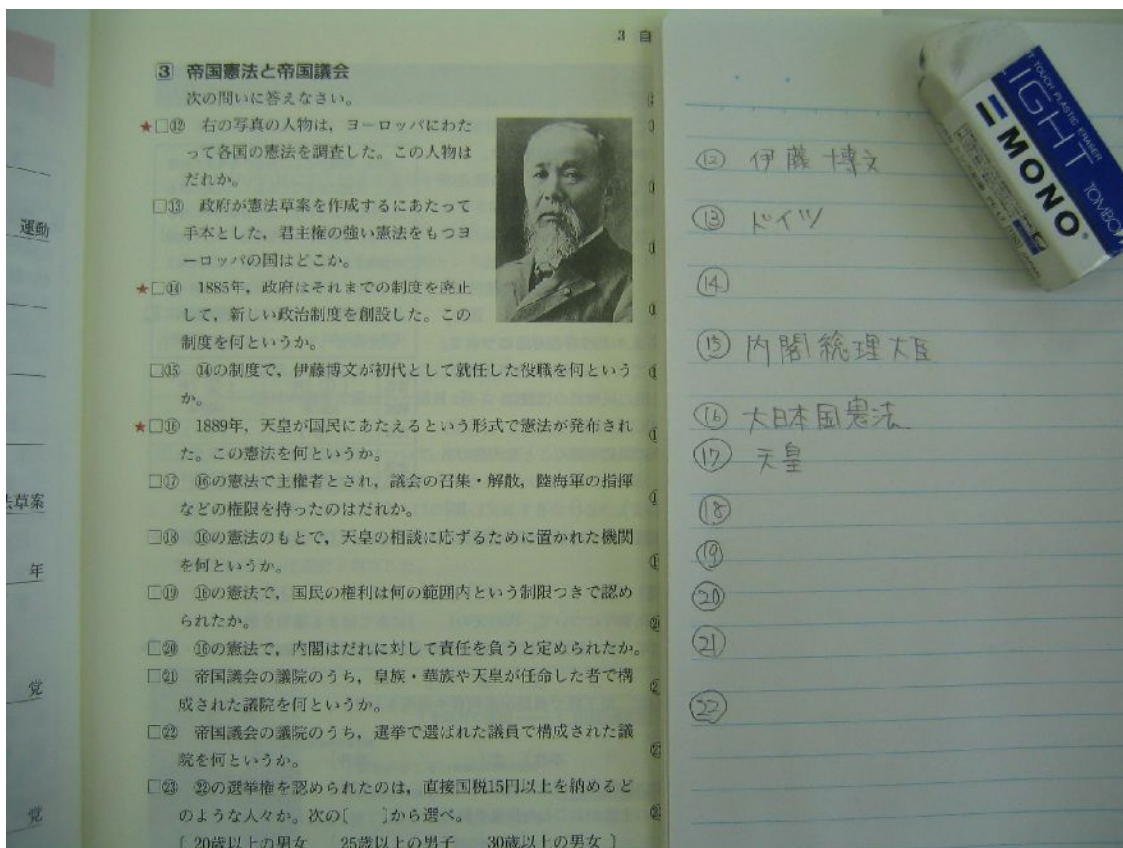
理科・社会 STEP2-2 さあ、ワークで覚えよう！

テスト範囲の大きな流れがわかったら、ワークを始めます。

ワークに＜要点のまとめ＞があれば、今度はじっくり読みます。

読み終わったら、＜要点のまとめ＞を^{かく}隠して、ノートに問題をやってみます。

テスト当日までに合計3回するのが理想です。 **1回目はノートに解きます。**



答えを書き込んでしまった場合は、上のように解答部分をノートで隠して

ノートに答えを書いていきましょう。

必ず何も見ないで解いてくださいね？

<要点のまとめ>や教科書を見たい気持ちはわかりますが、見ないでください。

1ページ終わったら、解答を見て丸をつけます。

何も見ないでやったので×が多いと思います。

それでもいいです。

解説を読んでみましょう。要点のまとめや教科書で答えを確認しましょう。

間違えた問題、わからなかった問題はワークに☑をいれます。

1回目は☑が多いかもしれませんが、気にしないでください。

1回目は誰でも☑がたくさんあるのです。

かまわず次のページの問題をノートにやってみます。

基本問題、標準問題を続けてやりましょう。

いいですか？絶対に<要点のまとめ>をチラチラ見ではいけませんよ。

チラチラ見て、答えを書いてはいけません。気持ちはわかりますが、ガマンです。

ガマンできるかどうかで、点数が決まるといいのです。

最初の<要点のまとめ>部分の基本問題、練習問題まで終えたとします。

ワークに☑がたくさんついたと思います。

ほとんど○がついていない？ 大丈夫です。

30点しか取れてない？ 大丈夫です。

これで一番つらく、大切な第一段階を終えました。

これであなたが覚えたことと、覚えていないことの区別ができました。

☑がついた問題が、君が覚えていない問題ですね？

もう一回解いて、☑を○にしていけばよいのです。

もう1度、同じ問題を解いてみましょう。

1回目と同じく何も見ないで解いていきます。

2回目ですから1回目より早くできます。

本当に早くできる？

本当です。

やってみればわかります。

しかも、1回目より楽になります。

☑の問題で2回目を終えて正解したものは☑を○で囲みましょう。

2回目も間違えたら☒です。

同じ問題を全部で3回やることを目標にします。

☑と☒がすべて○で囲まれたら終了！

理科の計算など、質問する問題は☆印をつけておきます。

STEP2-2 国語読解力をつけるには

中間・期末テストでは教科書で習った文章が出題されます。

授業で勉強して何度か読んだことがあるので、内容は知っているでしょう。

しかし、実力テストになると教科書には書いていない文が出ます。

初めて読む文章の問題を解くときは、どうすればよいのでしょうか？

一つの文章を精読しよう。

精読とは、細かい部分も注意して読むことです。

国語の点数が取れない人は、たいてい自分の解釈や勘に頼ってしまいます。

「次のア～エの中から選びなさい」という選択問題であれば、

< なんとなく、これっぽいな～ >と考えて、答えを選んでしまいます。

国語では自分の感じ方は横においておきます。

< 私はこう感じる、僕はこう思う > は考えません。

小学生の国語の授業では「自分の意見」が大切で、発表もしたかもしれませんが、

それは忘れてください。

とくに随筆(新聞の投稿のような文)や説明文(新聞記事や社説のような文)では、自分の考え方を入れてはいけません。

なぜだかわかりますか？

もう一度、国語の問題の最初に何と書いてあるか思い出してください。

次の文章を読んであとの各問に答えなさい。

でしたね？

繰り返しますが、文章中に答えそのものやヒントがあります。

ほとんどの問題は、文章の中の主張部分^{しゅちょう}をそのまま書くか、いくつかの文を切って

貼^はり合わせるなどすれば正解^{みちび}を導き出せます。

ですから、問題を解いたら、答えが本文中のどこに書いてあったか線を引いてみてください。

「ここに、こう書いてあるから……」と、本文に線を入れてみてください。

正解しなくてもいいので、答えの根拠^{こんきよ}を示してください。

どれだけ時間がかかってもいいので、理由もなしに答えを書かないようにします。

選択問題も、感性やなんとなく正解っぽいというだけで答えを選ばないようにします。

逆に言えば、本文に書いてない選択肢^{せんたくし}は✓して消せばいいのです。

自分なりの根拠をもって問題を解いたら、答え合わせをします。

自分なりに本文中の根拠を示して書いたけれど間違っていた場合は、解説^{じゅくどく}を熟読します。

それがまともな問題集であれば、どうしてそれが正解なのか書いてあります。

3、ケアレスミスを防ぎ、理解を深める方法

ここでは、ケアレスミスを防ぎながら、より深い理解をする方法を紹介します。

テストにケアレスミスはつきものですが、高得点を目指すならミスを最小限にする工夫が必要です。

さて、「**本当に理解している人は、他人に説明できる**」という言葉聞いたことがありますか？

自分が理解するより、他人に説明してわかってもらうの方が難しいです。

他人に説明できるということは、まず自分がよく理解していて、他人にわかるように

説明する順序を考え、言葉を選び、かみくだいて話す必要があります。

ときにはイラストや図も使うこともあるでしょう。

弟や妹に勉強を教えたことがある人は、経験していますね？

お子さんに勉強を教えたことがあるお父さんやお母さんも、経験していますね？

相手に分かってもらうのは、自分が理解することに比べ3倍の労力がいります。

では、説明する相手がいなくても、自分が勉強内容をきちんと理解できているかどうか確かめる方法を考えてみましょう。

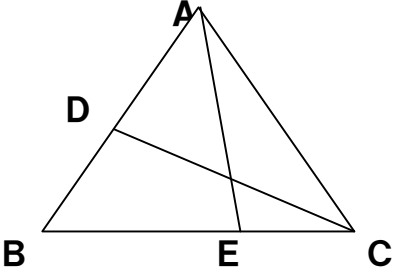
自分で自分に説明してみればいいのです。

自分がミスした問題を今後はミスしないためや、理解できているか確かめるために、自分で自分に説明します。

かといって、^{ひとりごと}独り言を言うのはちょっと^{ていこう}抵抗あるかもしれませんね……。

そこで、ミスした問題や理解が難しかった問題に、説明を書きます。

(例: 中2数学 証明)



○ $\triangle ABE$ と $\triangle CAD$ において
○ $AB=CA$ (仮定)・・・①
○ $BE=AD$ (仮定)・・・②
× $\angle ABE=\angle CAD=60^\circ$ ・・・③

① ② ③より 二組の辺とその間の角がそれぞれ等しいので、
 $\triangle ABE \equiv \triangle CAD$ 対応する辺は等しいので $AE=CD$

正三角形の角だから60度。
理由には「正三角形の性質」
と書く!

これないと減点!

このように「吹き出し」を書いて、注意すべきこと、減点になる部分、理解したことを書き込んでいきます。

$0.1x - 0.5y + 3x$
 ~~$= 1x - 5y + 30x$
 $= 31x - 5y$~~

方程式じゃないから、
10倍しちゃダメ!!

$0.1x - 0.5y + 3x$
 $= 0.1x + 3x - 0.5y$
 $= 3.1x - 0.5y$

ミスった問題は、何を間違えたか、なぜ間違えたか、そして正解を書くとベスト。

サンプル版は以上です。

サンプル版が正常に表示されましたら、本編のダウンロード版もご覧になれます。

一部を抜粋したものですので、文章が途切れてしまっていることはご了承ください。

どんな感想をお持ちでしょうか。

「こんなの当たり前じゃないか」と思われたかもしれません。

しかし、勉強が苦手なお子さんはこの当たりのやり方を知らないのです。

お子さんが「なるほど」「そうだったのか」と納得して、一つでも成績向上のヒントになれば嬉しいです。

なお、本編は全部で170ページあり、この無料版の5倍の内容があります。

たくさんの方が書かれていますので、一つでも二つでも取り入れてみてください。

少しずつでも確実に良い傾向が出てきます。

そして、お子さんの頑張っている姿があれば褒めてあげてください。

お父さんやお母さんにほめられることが、お子さんのやる気を引き出します。

成績が上がると子どもの表情が明るくなり、自信を持ちます。

自信を持つと、何に対しても前向き・積極的になります。

この教材がお子さんにも良いきっかけになることを願っています。

お申し込みは公式ページから <http://chugakuagaru.com/>

お時間をとお読みいただき、ありがとうございました。

安村 知倫